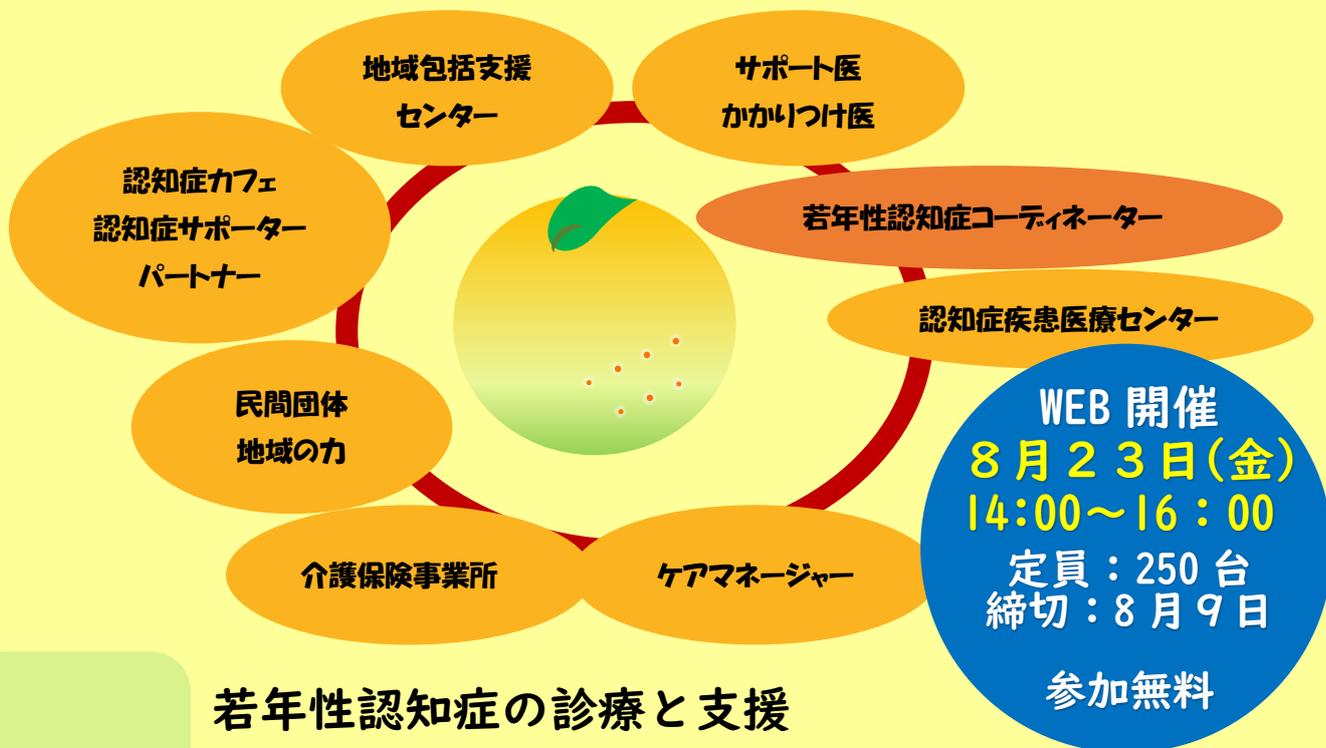


長野県若年性認知症支援コーディネーター設置事業  
2024年度 こころの医療センター駒ヶ根  
認知症疾患医療センター研修会



## 若年性認知症の診療と支援

### 講演

～専門医としてまたコーディネーターとして～

愛媛大学大学院医学系研究科 教授 谷向 知 先生

### 活動発表

若年性認知症支援の現場から

長野県若年性認知症支援コーディネーター  
長野県宅老所・グループホーム連絡会 伝田景光さん

### お申込み

参加希望の方は QR コードまたは下記アドレスの申込フォームより  
お申込みください。接続先で複数名でのご視聴も可能です。



<https://forms.gle/BQuVXfCuPUSggRDR7>

2024/8/9(金) 〆切

共催：公益社団法人日本老年精神医学会 長野県宅老所・グループホーム連絡会  
日本老年精神医学会生涯教育講座 【専門医単位・認定医単位・専門心理士単位 各3単位取得可能】  
後援：一般社団法人日本認知症ケア学会【認知症ケア専門士認定コード 234926 2単位取得可能】

### お問い合わせ先

長野県立こころの医療センター駒ヶ根 認知症疾患医療センター  
☎0265-98-0766 (直通) 0265-83-3181 (代表)  
✉ koma-ninchisho-k@pref-nagano-hosp.jp

## 講師紹介

谷向 知 先生 愛媛大学大学院 医学系研究科 教授

精神保健指定医、認知症サポート医、日本老年精神医学会専門医・指導医

愛媛県若年性認知症支援コーディネーター、認知症の人と家族の会愛媛県支部 顧問 など

大阪大学医学部卒業 大阪大学大学院医学大学院博士課程修了

2000年 国立療養所中部病院（現：国立長寿医療センター）にて精神科、物忘れ外来を立ち上げ

2003年 筑波大学臨床医学系 講師

2007年 愛媛大学大学院 准教授 2014年から現職

2007-2008年度と2017-2019年度、愛媛県の若年性認知症実態調査を実施

2015-2017年 日本医療開発研究機構 認知症研究開発事業プログラム・オフィサー

2020年度 『認知症（若年性認知症含む）の人や家族が

安心して地域で暮らすために必要な資源等の調査研究事業』委員長 など

～先生からひとこと～

我国の最新の研究報告によりますと、若年性認知症は全国で 35,700 人と推計され、18-64 歳の 2,000 人に一人が発症する病気です。診断を受けたことで「病気の進行」「今後の生活や経済面」「社会とのつながりが薄くなる」「支援制度やサービスの情報が得にくい」といった具体的な不安のほか「ただ意味もなく不安」を感じておられる方は少なくありません。一方、「病気がそうさせているのがわかった」「情けなさが軽減した」「覚悟ができた」ときちんと診断されてよかったととらえられる方もおられます。診断が絶望をもたらせるのではなく、前向きに暮らしていただくためにしっかりと診断後支援を行っていくことが若年性認知症では大切です。

### \*長野県の若年性認知症支援について\*

若年の認知症の方は高齢者認知症と違い、就労を失うなど経済的なダメージはかなり大きなものになります。しかし、そこは様々な制度を取り入れてカバーできます。また、「身体」は若さもあり「動ける」ことが特徴になります。ですので、高齢者に比べて活動の場が得られれば人生のリカバリーにつながる事が可能になります。必要なことは、失ってしまった人間関係の再構築、仲間づくりです。認知症を抱えて悩んでいるのは自分だけじゃないと感ずることができると。例えば「本人ミーティング」のような場で仲間づくり、悩みの共有。そこができればご本人たちは、自分以外に悩んでいる本人たちを助けたいという気持ちになります。本人同士の助け合い「ピアサポート活動」が形になったものが、「おれんじドアながの」になります。若年性認知症を不幸にも抱えてしまった方たちは、自分自身で状況を変えていく力があると思います。それを深く理解してともにリカバリーへの活動を伴走できる「パートナー」の存在もとても重要ではないでしょうか。

今回の研修会では、若年性認知症支援に取り組む、県内の若年性認知症支援コーディネーター達がどのように活動しているか、皆さんに知っていただく機会としたいと思います。

若年性認知症支援コーディネーター 長野県宅老所グループホーム連絡会事務局 伝田景光